



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 55 号 2014. 11. 17

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場から

東京スピニングパーティに出展しました

9月28日、29日に東京スピニングパーティが開催されました。糸紡ぎから始まり、染める・織る・編む・組む・縫うなどに関わる人たちの情報交換・交流と発表の場として2001年から続くイベントです。

十和田農場では、2011年に導入されたマンクス・ロフタンという羊の繁殖を成功させ、その希少な羊毛を需要があるところに提供したいと考え、今回のパーティへの出展を決めました。

日本に50~60頭程度しかいないといわれるマンクス・ロフタンの羊毛は、茶色く弾力のある毛質で、その自然な風合いが羊毛を扱う方々には人気だそうです。しかし、簡単に提

TOKYO SPINNING PARTY 2014

紡ぐ、染める、織る、編む、組む、縫う、人から人へ 手から手へ
「手紡ぎ・手織り・手編みのある暮らし」



供するといえども、スピナー（糸をつむぐ人たち）が扱えるようにするまでには様々な工程があります。まずは毛刈り、これは我々生産者が避けて通れないものです。毎年春先に一度毛刈りをして羊たちはこざっぱりします。この先からは、いわばスピナーのための工程です。羊毛についたゴミ（牧草やその種子、糞など）を落とし、きれいになるまで洗います。乾燥した後は毛に入り込んだゴミをただひたすら取り除きます。最後にカーディングという羊毛をふわふわにする作業が待っています。洗って固まった羊毛を細かい櫛を通して絡まりをとっていきます。こうして、ようやく糸をつむげるようになるのです。

今回は、カーディングまで手が回らなかったため、乾いた羊毛のゴミを粗方として袋詰めして出展しました。50g 詰めのを 50 個、100g 詰めのを 25 個用意した結果、見事に 2 日間で完売いたしました。スピニングパーティ自体も大盛況だったらしく、たくさんの方々に十和田農場のマンクス・ロフタンをアピールできたのではないのでしょうか。



八雲牧場から

国産食肉等新需要創出事業視察（7/17～19）

独立行政法人農畜産業振興機構 ALIC の国産食肉等新需要創出事業として東都生協とマルハニチロ畜産の担当者の視察を受け入れました。

来場した方々には、北里八雲牛と霜降り牛肉、鹿肉を提供し、肉当てやアンケート調査を行いました。北里八雲牛と鹿肉を間違えるなど、興味深い回答を得られました。その他に場内のスタディーウォークを行い、夜は町内の北里八雲牛普及推進協議会の生産者組合の皆さんも交えて、北里八雲牛のBBQを行いました。

生産・流通・消費の三者で3日間を通して北里八雲牛を考える良い機会になりました。

八雲町立落部中学校の中学生視察

8月27日に八雲町内の落部中学校から中学生の視察を受け入れました。八雲町内に住んでいても牛に触れ合うことが少ないようで、怖がる学生も何人かいました。このような機会を通して肉牛や農業に興味を持ってもらえたら良いと思います。



学生実習終了（E科、Z科、M科、ヤマザキ学園）

E科（7/7～9、9～11）を皮切りにZ科（7/30～8/3、8/4～8、9/1～5、8～12）、M科（8/19～22、22～25）、ヤマザキ学園大学（9/18～20）の計9回の学生実習が終了しました。事故もなく終了後の反省会等では実習に参加できてよかったとの言葉を頂きました。今後も中身の濃い実習にしていくよう今回の反省を生かしていきたいと思えます。



北海道・東北ブロック大学附属農場協議会(7/31～8/1：帯広畜産大学)

本協議会に、寶示戸センター長、田中ゆいさん（十和田農場）および小野泰係長（八雲牧場）が参加しました。

協議会の翌日には、今回の幹事校である帯広畜産大学の附属農場および加工施設の見学が行なわれました。大学内で屠畜から加工までの工程を行えることに大変驚きました。防疫体制もしっかりしており学ぶことの多い協議会でした。北里大学が平成28年の次期幹事校に決まりましたので、立派な協議会を開催できるようにしたいと思います。



伊勢丹浦和店に出展

9/23～29 伊勢丹浦和店の秋の大北海道展に草熟北里八雲牛の加工品を出展しました。本部総務部広報課のみなさんの協力により無事会期を終了することができました。

収穫作業終了（～9/27）

9月27日に今年度の収穫作業がすべて終了しました。

収穫量は、グラスサイレージ 700t、ロールベールサイレージ 925 ロールと昨年より少なめですが、翌年度に繰り越すことができる程度まで収穫量を確保することができました。牧草もここ数年掛けて行ってきた簡易更新のおかげで品質の良いものができています。これから冬に向けて堆肥散布と追播が予定されています。北里八雲牛のすべてともいえる牧草生産も毎年徐々に改善されてきています。

(編集担当：畔柳 正)